

2023 ANNUAL REPORT



Q JCI 大阪 GO

Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所



www.OSAKA-JC.ORG.JP

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL
OSAKA

2023 ANNUAL REPORT

JCI 
一般社団法人 大阪青年会議所

今を生きる すべての人のために

CONTENTS

- 04 大阪青年会議所とは
- 05 大阪青年会議所の歴史
- 06 理事長所信

01 子どもの個性を輝かせる自律性を育もう！

- 09 みらいく
- 10 ULTRA KIDS PROJECT
- 11 第42回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会

02 生きる意味を見つめなおし、都市をアップデート！

- 13 ダイカレ～Dive Osaka!!カレッジプロジェクト～
- 14 ミナミ・ミュージック・ミックス
- 15 公開討論会
～誰もが活躍できる社会に今必要なこと～
- 16 第35回なにわ淀川花火大会
- 17 献血にいったんでプロジェクト大阪2023

03 自分らしさを追求できる世界を実現しよう！

- 19 Pe-sports fes '23
- 20 World Citizenship Congress
- 21 TOYP～The Outstanding Young Persons～
- 22 2023年度活動にご協力いただいた企業及び団体

04 多様な個性を尊重し、 共に成長できる組織を！

- 25 新年名刺交換会
- 26 月例会
- 28 公開月例会及び交流会
- 29 大阪会議
- 30 OB現役交歓会
- 31 会員大会
- 32 国内外の青年会議所とのつながり
- 34 姉妹JC締結
- 36 万博に向けての活動
- 37 広報
- 38 2023年の歩み
- 40 組織図

大阪青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定にもない青年会議所と改名)設立から、日本青年会議所(JC)運動は始まりました。

共に向し合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要なメンバーとして関わっていきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条(トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」フレンドシップ「世界を結ぶ友情」)のもと、よりよい社会づくりをめざしボランティアや行政改革などの社会課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

大阪青年会議所の特性

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意思によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。(但し入会資格は満25歳から37歳まで)これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなければなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。

青年会議所におけるさまざま実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国会議員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

団体概要

団体名	一般社団法人大阪青年会議所
創立年月日	1950(昭和25)年3月25日
社団法人格取得年月日	1955(昭和30)年1月17日
一般社団法人移行年月日	2014(平成26)年1月6日
事務局所在地	〒552-0007大阪市港区弁天1-2-30オーク4番街401号室
連絡先	TEL:06-6575-5161 FAX:06-6575-5163
正会員数	862名(2023年12月31日現在)
OB会員数	2,844名(2023年12月31日現在)
事業年度	1月1日~12月31日
URL	https://www.osaka-jc.or.jp

大阪青年会議所の歴史

1950年	大阪青年会議所創立
1951年	日本青年会議所創立
1957年	「整肢学院児童招待ドライブ」を開始
1962年	「JCIアジアコンファレンス」を大阪にて開催
1970年	万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
1974~83年	「淀川マラソン」を実施
1974年	淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催
1980年	「JCI世界会議大阪大会」を開催
1980~89年	「国際シンポジウム」を開催
1980年~	「キッズ スワップ(交換ホームステイ)」を開始
1981年	「TOYP(The Outstanding Young Person)大阪会議」を開催
1982年	「わんぱく相撲」を実施
1985年~	天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
1986年	「Save The Children Japan (SCJ)」設立(大阪JCが中心となって設立)
1995年	阪神・淡路大震災における組織的支援活動／国連広報局よりNGOとして承認
1996年	「大阪NPOセンター」設立(大阪JCが中心となって設立) 「大阪モデル国連会議(OMUN)」開催
1998年	「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催
2000年	大阪JC創立50周年記念植樹／「大阪JC実りの森」を実施
2001年	「日本JC第50回全国会員大会大阪大会」を開催
2008年	インド・ニューデリーにて、「2010年度JCI世界会議」が大阪に決定
2010年	「大阪JC創立60周年記念式典・祝賀会」開催 「第65回JCI世界会議」を大阪にて実施
2012年	「第67回JCI世界会議台北大会」でブノンベンJCとシスターJC締結
2014年	一般社団法人へ法人格を移行
2015年	「大阪JC創立65周年記念式典」開催
2016年	18歳選挙権解禁に伴うULTRA VOTE PROJECTの開催
2017年	マチミラOSAKA2017の開催
2018年	大阪市への公開提言の実施／万国博覧会の開催決定
2019年	SDGs MIRAIKAIGIの開催／SDGs甲子園×TOYPの開催
2020年	「大阪JC創立70周年記念式典」開催／粋の祈りプロジェクトの実施
2021年	「献血にいたんでプロジェクト大阪2021」開催／「大阪未来博」を開催
2022年	「バズるFUKUSHIMA」開催／「モテラシーOSAKA」の実施
2023年	「みらいく／World Citizenship Congress／Pe-sports fes' 23」の実施





人と社会が調和する大阪の創造

～自らを超越せよ 今を生きるすべての人のために～

一般社団法人大阪青年会議所
第73代理事長 植松 康太

「人間は、目標を追い求める動物である。目標へ到達しようと努力することによってのみ、人生が意味あるものとなる。」万学の祖と称されるアリストテレスの言葉は、「生きるために何をするのか」から「何のために生きるのか」へと人生の価値観がシフトしてきた現在、時代を超越した普遍的な真理を表しています。自らのエネルギーを最大化する大いなる野心を抱き、それを叶えるため圧倒的努力を絶やさず、共に成長する人びとと響き合えば、自我を超えて周囲・社会を想う精神的成熟へと向かいます。無気力・無関心は個の成長を阻み、馴れ合いともいえる同調しか生み出しません。多様な個性の不一致から価値観が互いに影響し合い、矛盾や衝突が超克されることで、全体がより高次の存在へと最適化します。今こそ、自らに与えられるあらゆる事象に価値を見出し世界との一体化を志向する自己超越の精神を育み、多様であることから自然と調和が生まれる、人と社会が調和する大阪を創造します。

はじめに

戦後の日本は、荒廃した国土の復旧、経済の復興、国際社会への復帰という大いなる野心のもと、勤勉な国民性とも相まって目覚ましい経済成長を遂げました。大阪の歴史を紐解いても、古代から近代にかけて、政治都市、宗教都市、商業都市へと変遷し、明治以降は、一旗揚げようとする野心をもった人材が、全国各地から集うことで多くの起業家が生まれ、様々な事業を興したことにより産業が集積し、工業都市として経済の基盤が確立しました。大阪のまちが、時代の潮流に応じて、絶えず変化しながら発展してきたのは、自己超越の精神が根付き、多様な個性が響き合い、社会と調和してきたからに他なりません。しかし、現在、脱成長やミニマリズムなど、欲望を抑えることが美德かのような空気が蔓延し、野心は鳴りを潜めています。リスクを恐れるあまり、変化を避ける傾向が顕著であり、現状維持を選択することが経済成長・教育改革の停滞を招き、大阪、日本は時代から取り残されつつあります。これからは、指標的な進化を遂げたテクノロジーによって、これまで明確な境界線があった身体と精神、生命と機械、自

然と人工、現実と非現実、生と死の区別が曖昧となります。これにより、人間の精神が身体から独立することで、個人は異なるアイデンティティを有する分人を複数内包した人格を形成すると共に、人間の環世界が拡張することで一種のパラレルワールドが現実化します。私たちは、個が活躍する場が無限に拡がるフェーズに到達した時代の転換期において、既存のシステムや同質性を偏重する価値観に囚われず、多様な個性がありのまま響き合う都市へと柔軟に変化させていかなければなりません。未知なる世界への好奇心を絶やすことなく、自尊心を胸に互いの価値観を認め合い、探究心をもって物事の本質を追い求める自己超越の精神によって、人と社会が調和する大阪を創造します。

子どもの自律性を育む環境の構築

「自分は社会に責任を有する大人である」「将来の夢がある」と回答した日本の若者は他国と比較しても圧倒的に少ない結果となっており、社会に対する当事者意識、主体性の欠如が露呈しています。これから社会では、限られた物質的環境のなかで効率性を追い求めるのではなく、無数に拡がる多元的な世界において、自らの軸に基づいて主体的に行動することが求められます。多様な価値観をもつ子どもたちが個性を伸ばし活力みなぎる人材へと成長し、変化する社会環境に柔軟に対応するためには、自律性を育む社会環境を構築していくなければなりません。効率性に重点を置いて解を導きだすこれまでの教育スタイルに固執することなく、社会にどのような課題が存在するのかという問いを的確に立て、その解決に向けて行動する能力を育成することが必要です。世間の同調圧力や時代背景の異なる大人の価値観に囚われることのない大胆な教育改革を行い、与え続ける教育から自ら考える環境へと変化させることが子どもの成長に資するのです。また、大人がバイアスをもって子どもと接することにより、これまでの価値観やマジョリティから外れた個性をもつ子どもが社会から排除される事態が生じており、社会全体で支援する体制も必要です。

大人の無意識を表出することで課題を明確にし、子どもの成長に対する努力を怠ることなく優れた教育を実践していかなければなりません。私たちは、いかなる状況においても子どものあるがままの個性を受けとめ、共に成長することへの探究心をもって思考を磨き上げ、他者からの支配や強制を受けることなく確立された軸で行動する自律性を育んでいきます。

「LIFE AS VALUE」の実現

現在の大阪は企業流出に歯止めがかからず、成長分野への産業構造の転換が遅れるなどの課題を抱え、GDPの全国シェアは長期低落傾向が続いている。また、将来の人口、生産年齢人口の推移をみても、関西は他の地域と比較して減少スピードが早いと予測されており、都市のプレゼンスを高めることが喫緊の課題といえます。すべての人びとに活躍の機会が生まれるこれから社会においては、多様な価値観が等しく尊重され、生涯を終えるまで自己実現に向けて取組むことができる環境を構築し、その人らしく生きていることが価値となる世界「LIFE AS VALUE」を実現していかなければなりません。大阪の強みである中小企業の変革や健全な発展を図ることにより、これまで活かされてこなかった多様な労働力を創出することは、急激に変化する社会に柔軟に適応することにつながります。企業は働くことの価値観が多様化していること、経済構造が根底から変わることを的確に捉えて変化しなければなりません。また、大阪から老若男女、国籍を問わない新たな文化を創造することで、多様性を強みとしてきた都市の魅力をアピールすることも必要です。1970年の大阪万国博覧会は、私たちの生活を激変させた多くの物質的なイノベーションを創出しました。人びとの生活レベルが一定程度満たされた現代社会においては、企業と働く人びとの在り方を再構築とともに、拡張する環世界に向けた新たな文化を創造し、大阪が日本そして世界に未来のライフスタイルを示していきます。私たちは、いま一度、生きることの意味を見つめ直し、互いの価値観を認め合う自尊心を育んでいきます。

国家を超えた普遍的文化を創造する人材の育成

現在の世界情勢をみると、ロシアによるウクライナ侵攻、台湾問題をはじめとする地政学的リスクが至るところで生じており、地球という限られた枠組みのなかのコミュニティである国家間においては、複雑な利害関係が絡み合い、意志・思考・感情は響き合うことなく反発しています。経済的側面においても、先進国の豊かな生活を支える成長の裏側では、地球規模の環境汚染、発展途上国の劣悪な労働環境などをはじめとする負の外部化が生じており、人が生まれながらに有する人権があまねく保障されているとはいえない現実があります。世界中のすべての人びとが取り残されることなく自己実現を追求できる世界を構築するには、人びとの思考が国家という既存の枠組みに捉われることなく根底から変化していかなければなりません。

「誰もが自分自身の視野の限界を、世界の限界だと思い込んでいる。」ショーベンハウアが残した言葉は、人間が有する可能性を示唆しています。その鍵となるのは地球という枠、そして、物質性に限定されたこれまでの思考の枠を超えて、テクノロジーの進化により生まれる身体性を解放した世界、そして、宇宙という新たな物質的な世界を踏まえた環世界の構築です。すべての人びとが国家という枠組みを超えて世界市民として調和していく社会を構築するためには、世界というものを自然、デジタル、宇宙とこれまでより拡大した世界観をもって捉える視点が必要となります。私たちは、物質的・身体性が拡張された未知なる世界を想像する好奇心をもち、人びとが共存する未来を思い描き、国家を超えた人類の普遍的文化を創造する人材を育成します。

青年会議所よ 超越せよ！

私たち大阪青年会議所は、設立以来、日本そして世界中に築き上げた組織に対する信頼を根幹として、都市に存在するあらゆる叡智を結集することで、時代の変化に先駆けて躍動感あふれる革新的な運動を展開してきました。しかし、今後の人口動態として青年が減少していくことは確実な状況にあります。加えて、情報交換の手段が発達したことにより人がつながることが容易になり、多様なコミュニティが存在する社会においては、青年会議所とは何か、青年会議所らしさとは何なのかを見つめ直し、確立した組織のブランディングを軸として、大阪に自己超越の精神をあふれさせなければなりません。メンバーの価値観、立場や目的、時間・金銭のリソースによって青年会議所への期待感や関わり方は異なることから、メンバーの数だけ理想の青年会議所像が存在します。だからこそ、多様な個性が刺激を与え合い、各々が自己実現に向けて取組むことができる多様性が根付いた組織へアップデートすることで社会の変化を的確に捉え、超越した個が響き合う社会を構築していきます。のために、メンバーの思考を磨き上げ、互いに切磋琢磨する機会を創出すると共に、組織の資産を活かしたコンテンツの充実、行政・民間企業との連携、そして、世界に拡がるLOMとの連携構築の起点となり、新たな可能性を発信していくことで、自己超越の精神を融合させる中核的な役割を担い、人と社会が調和する大阪を創造します。

恐れや不安、期待や希望を超越した感情が生まれてくる世界。

一日一日を、たっぷりと生きていくより他は無く、明日のことを思ひ煩わざ、きょう一日を、よろこび、努め、すべてに優しく暮していく。

01 子どもの個性を輝かせる 自律性を育もう！



**既存の価値観に囚われずに子どもの自ら考える力を育み、
いかんなく個性を発揮できる教育を**

大阪府内の中学校教員の方々と共に、子どもの自律性を育む教育を実現した
「みらいく」と、地域の方々と共に、子どもの個性を発揮させる「ULTRA
KIDS PROJECT」を実施しました。

私たち大人が子どもを導く当事者となり、子どもの個性を受け止める包容力を
もち、子どもが自らの意思で未来を切り拓く教育を話し合い、実践するこ
とで、子どもたちが自らの個性を自由に表現できる環境を築きました。

みらいく

「みらいく」は、大阪府内の中学校教員の皆さんに、子どもの「自ら考える力」を育む教育について考えていただき、子どもたちの主体的な思考を育んでいただきました。

授業での実践を通じて、子どもたちが学校のルール・学び・環境の改善に取り組むことで、「無口な子どもが話すようになった。」「控えめな子どもがリーダーシップを発揮していた。」など、子どもの変化について実感いただき、既存の教育を見直すきっかけとなりました。



ULTRA KIDS PROJECT

地域の方々に、子どもの個性を育む大切さを知っていただくために「ULTRA KIDS PROJECT」を実施しました。市場や商店街での職業体験、ホームステイ体験、大阪の名物をクイズ形式で探す体験など、社会をリアルに体験できる「リアル体験プログラム」を、地域の方々と共に企画し、実施しました。

子どもたちの様々な価値観に触れてもらい、地域全体で子どもの個性を育む大切さを知つてもらいました。



第42回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会

城東小学校にて、「第42回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会」を開催いたしました。今年は小学校4~6年生までの男女、総勢165人が熱い取り組みを繰り広げました。日頃から稽古に励んでいる子どもたちから、はじめて相撲にチャレンジする子どもたちまでが広く参加し、笑いあり涙ありの大会となりました。

当日は挑戦することの大切さを実感できる様々なブースを出展しました。親子で楽しむ姿も見られ大いに盛り上りました。

02 生きる意味を見つめなおし、 都市をアップデート！



ダイカレ～ Dive Osaka!! カレッジプロジェクト～

「ダイカレ～ Dive Osaka!! カレッジプロジェクト～」は、多様性が求められる現代社会において、誰もが活躍できる社会の実現に向けてダイバーシティ経営の普及・促進を目的に実施したプロジェクトです。

大阪の中小企業の経営者層に向けて、経営者の意識を変えるためのプログラムを実施いたしました。さらに、今後もダイバーシティ経営を普及していくためのプロジェクトチームを発足し、誰もが自分らしく活躍できる社会の実現に向けた起点をつくることができました。

**あらゆるステージで多様な個が躍進し、
誰もが自分らしく生きていることが価値となる世界を**

中小企業の経営者層の皆さんと共に、誰もが活躍できる社会を築く「ダイカレ～ Dive OSAKA!! カレッジプロジェクト～」と、地域の方々と共に、世代を超えて多様な個がつながる「ミナミ・ミュージック・ミックス」を実施しました。

誰もがいきいきと住み暮らし、互いの個性や価値観の違いが等しく尊重される社会を目指し、多様性を強みとした大阪の新たな魅力となる社会モデルを築きました。

ミナミ・ミュージック・ミックス

「ミナミ・ミュージック・ミックス」は、世代を超えた交流を文化として広めるプロジェクトです。どの世代でも慣れ親しんでいる音楽を中心、世代や分野を越えて、ステージとともに創り上げました。商店街組合、大阪音楽大学、関西コレクションなど、様々な方々で考えた、これまでにないパフォーマンスが行われました。

事業当日は1万人以上の参加者があり、ミナミの地を訪れた多数の人びとに「双方向の世代間交流」が織りなす、新しい文化の可能性を感じていただきました。



公開討論会

～誰もが活躍できる社会に今必要なこと～

「公開討論会～誰もが活躍できる社会に今必要なこと～」は、その名の通り、誰もが自分らしく活躍できる社会を実現するために、何が必要なのか、そして私たちはこれからどうしていくべきかを今一度見つめ直す機会として、様々なテーマに沿ったディスカッションを行うプログラムとして実施いたしました。

当日は、各政黨の党員の皆さまをお招きし、大阪の現状や課題の解決策、これからの未来に対する展望について熱く議論していただきました。

第35回 なにわ淀川花火大会

今年は、新型コロナウィルスが5類に移行したことで、4年ぶりに制限なしでの開催となりました。大変多くのボランティアの皆さんにもご協力いただき、会場受付や会場誘導、翌日の清掃活動などを行いました。

毎年地域の人びと協力して実現する花火大会は、地域の結びつきと絆の大切さを感じる大切な機会となっています。



献血にいったんでプロジェクト大阪 2023

日本赤十字社と連携し、京橋駅前など市内5箇所同時に献血の促進活動をおこないました。当日は477名の方に献血の受付をしていただきました。

また、今年は新たな取り組みとして、「ハロウィンだ！献血に行こう！」と題し、大学や専門学校の学生の皆さんと協力し、ハロウィンに合わせてハロウィンメイクやネイルができるイベントを開催いたしました。

03 自分らしさを追求できる 世界を実現しよう！



Pe-sports fes'23

急速なデジタル分野の進展に注目し、国籍や身体的な制約にとらわれない環境を築くことを目指しました。中小企業の経営者と連携し、様々な企業や団体と協力して、eスポーツの大会を展開しました。

この大会の企画と運営を通じて、従来の制約を超越し、誰もが自己実現を追求できる独自の場を構築することができました。

一人ひとりが尊重され、世界中の人びとが 自由に自分自身を表現できる環境を

大阪の若手起業家の方々と共に、誰もが平等に自分を表現できる環境を創る「Pe-Sports Fes23」と、未来を担う大阪の高校生を、国という枠に捉われない世界市民に育成する「World Citizenship Congress」を実施しました。

私たちは、国境、性別、人種、障がいなどに捉われず、すべての人びとが自分らしさを発揮し共存する、未来に向けた基盤となる文化の創造に取り組みました。

World Citizenship Congress

「World Citizenship Congress」は、世界30カ国の若者を大阪に招聘し、ビジネスと人権をテーマに開催した世界平和サミットです。

世界各国から集まった参加者が自国の背景に基づいた意見を交わすことで、国家という枠を超えてビジネスと人権について学び、国境を越えて深い友情が育まれました。また、サミットを通して作成した平和宣言文をスイスのジュネーブにある国際連合本部に提出することができました。



TOYP ~ The Outstanding Young Persons ~

「TOYP～The Outstanding Young Persons～」は、世界各国から多様な分野で活躍する将来性のある若者たちを日本に招聘し、民間外交と国際交流を促進するプログラムです。

今年の「TOYP」では、Web3やDAOの関連分野で世界の課題解決に挑戦している、リビア、イギリス、パナマ、キルギス、ドイツから傑出した若者を招聘いたしました。このプログラムに参加した国内の大学生たちは、プログラムを通じて世界の問題や課題解決について学ぶことができました。

2023年度活動にご協力いただいた企業及び団体

ULTRA KIDS PROJECT

この度は、ULTRA KIDS PROJECT に講師監修として参加させていただきありがとうございます。このプロジェクトは、新しいタイプの活動から学ぶプログラムの作り方を講義し、それに基づいて青年会議所や保護者の方々に、子ども向けの「働くプログラム」を作成いただきました。多くの働くプログラムでは、大人がお膳立てをしてそのレールの上を働く子どもたちがいるのですが、今回は違っていました。子どもたちは、商店街の店舗と青果市場で、大人と同じように働くことを体験し、その報酬を現物支給してもらいます。彼らは途中で脱落したり不満をこぼすこともなく一生懸命命の人と働いており、その活動の様子は学校に行かず家にいる子どもたちとは思えないものでした。また、自分たちで稼いだ食材で料理し、親に振る舞う姿はとても頼もしいものでした。一人では何もできないように見える子どもも、こうやって他の大人に預け、役割を持ち、彼らに合った方法でその力を引き出す活動をすると、大きなボテンシャルを秘めていることが見えてきます。このプログラムを通して、保護者の皆さんとの子育てが少し変化したらいいと思います。



東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー 中邑 賢龍 氏

ダイカレ~ Dive Osaka!! カレッジプロジェクト~

この度はダイカレプログラムに講師として参加をさせて頂きありがとうございました。私自身も皆様のアイディアや、意見から多岐にわたる知見を得ることができた貴重な機会でした。

特にグループワークでは、他社の視点や学生の視点から得た示唆が、今後のビジョンをより具体的に描く手助けとなっていたのではないかと思います。

今後、大阪万博を控える日本でも D&I の重要性が一層高まるなか、これらの課題に対処し、共に力を合わせて、より包括的かつ創造的な組織文化を築いていくことが不可欠です。このダイカレの波を全国にひろげていきましょう！



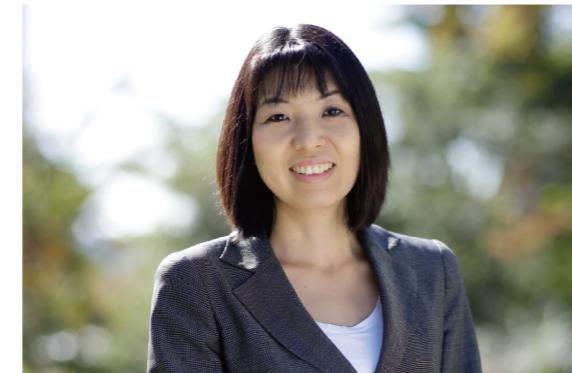
株式会社 Job Rainbow
代表取締役 CEO 星 賢人 氏

ダイカレ~ Dive Osaka!! カレッジプロジェクト~

ダイバーシティ経営を浸透させる、【Dive OSAKA!! カレッジプロジェクト】において本学日本文化学科「問題発見・解決セミナー」の授業を受講する学生 47 名と参加企業様との2回にわたるディスカッションとプレゼンテーションを実施。2023年ジェンダーギャップ指数 125 位の日本において、これから社会で女性が活躍しやすくなることは必要不可欠となっています。

学生にとっては、各企業様の課題解決を通しての企業研究の機会となり、企業様にとっては思ってもみなかつたことを女子大学生に提案されるという双方にとっての気づきの多い機会となりました。

女子大学のような社会の構造と異なる場から生まれる発想が、眞のダイバーシティの発展につながると思います。



学校法人梅花学園常務理事
梅花女子大学企画部長 藤原 美紀 氏

ミナミ・ミュージック・ミックス

この度、ミナミ・ミュージック・ミックスへの協力に際し、文化振興と地域の発展に尽力してきた立場から、この取り組みへの深い意義を感じています。音楽は地域社会に元気と活気をもたらし、難波が持つ多様な魅力を引き出す一助となることを期待しています。地元の商店や観光地が一体となり、地域経済の活性化に寄与する場となるでしょう。

また、若手アーティストや地元の才能たちにとって新たな発信の場となり、地域社会全体の連携が必要です。協力し合い、地元の方々、企業、行政と連携しながら、この音楽イベントが地域社会の未来に向けて重要な一步となることを期待しています。

ご協力いただく皆様に心より感謝し、大阪の未来を築くために一層のご支援とご協力をお願いいたします。



千日前道具屋筋商店街振興組合理事長
大阪活性化事業実行委員会代表理事 千田 忠司 氏

Pe-sports fes'23

南海電鉄株式会社は、Pe-sports fes'23への協力を通じて、eスポーツが提供する新たな舞台で、参加者が仕事やプライベートとは異なる一面を発揮し、自己表現の場として活用できることを支持しています。このイベントは、eスポーツがもたらす可能性を最大限に引き出し、参加者が競技を通じてチームワークや戦略を学び、個々のスキルを高める機会を提供しました。地域ごとに展開された予選会や、大迫力の 360 度 LED フルスクリーンを備えた泉佐野オチアリーナで開催された e スポーツの決勝大会は、これまでにないエンターテイメント体験を提供し、e スポーツが新たなコミュニティとしての可能性を広げつつあることを示しています。

南海電鉄株式会社は、未来の e スポーツが地域社会に与えるポジティブな影響を期待し、その成長と発展を応援しています。



南海電気鉄道株式会社 経営戦略グループ
eスポーツ事業部 兼 e スタジアム株式会社代表
加藤 寛之 氏

Pe-sports fes'23

Pe-sports fes'23において、セガ株式会社は e スポーツの新たな可能性を引き出すイベントに協力し、東京、大阪、岐阜、佐賀での予選会から泉佐野オチアリーナでの e スポーツ決勝大会までを支えました。参加者は通常の活動範囲を超えて、自らのスキルや才能を発揮する場を得ることで、e スポーツの多様な魅力を体験しました。ゲームを通じた新たなコミュニティ形成や個々の成長が強調され、セガはその進化を後押ししました。泉佐野オチアリーナでの大会本戦や、各地で開催された予選会において、e スポーツは参加者にとって革新的なエンターテイメント体験を提供し、地域社会に新たな活力と結びつきをもたらす可能性が示されました。

セガは、e スポーツが単なる競技に留まらず、個人の成長や共感を促進するプラットフォームとして、今後もその展開に注力していく決意を表明しています。



株式会社セガ ジャパンアジアパブリッシング事業部
eスポーツ推進室 正廣 康伸 氏

04 多様な個性を尊重し、 共に成長できる組織を！



自らに与えられたあらゆる事象に価値を見出し、
多様な個性をありのままに響き合わせるメンバーを！

多くの会員と共に、誰もが自己実現に向けて取り組むことができる組織を築いてきました。2023年度の組織の方向性を共有する「大阪会議」、外部講師を招き学びのきっかけをつくり、全メンバーの意識を統一する「月例会」、1年間の集大成事業である「会員大会」などを実施しました。

設立70年を超える歴史と誇りを胸に、OB諸兄姉との絆を深め、これからも青年経済人としての志を基軸に、果敢に行動してまいります。

新年名刺交換会

大阪青年会議所会員とOB諸兄姉が一堂に会し、新年のお祝いをするとともに、交流を深めることができました。華やかな近畿大学附属高等学校吹奏楽部による演奏から始まり、新年らしく鏡開きも行われました。

会では植松理事長より新年挨拶と合わせ2023年度の活動方針を発表いただき、2023年度の執行部の紹介やOB諸兄姉から現役会員へ向けた激励のご挨拶をいただきました。



月例会

大阪青年会議所では、月に1度、大阪青年会議所会員が集まり、理事長からの活動報告や出向者報告が行われ、全メンバーが意識と情報を共有する月例会が開催されております。また、各業界で活躍されている講師をお招きしてご講演をしていただきました。

会員が一体となり、学びの機会を定期的に設けることを通じて、大阪青年会議所の活動だけでなく、会員一人ひとりが社業等にも活かしています。



2023
1.14
Sat.14:00

1月度 月例会 不死王閣

Fraction Ventures 株式会社
代表取締役 亀井 聰彦 氏



2023
3.22
Wed.19:00

3月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー 中邑 賢龍 氏



2023
3.22
Wed.19:00

3月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

大阪大学大学院国際公共政策研究科
教授 ヴァージル・ホーキンス 氏



2023
6.20
Tue.19:00

6月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

アパホテル株式会社
取締役社長 元谷 芙美子 氏



2023
10.26
Thu.19:00

10月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

小説家、エッセイスト
林 真理子 氏



2023
2.14
Tue.19:00

2月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

元プロ野球選手
鳥谷 敬 氏



2023
3.22
Wed.19:00

3月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

大阪音楽大学学長
本山 秀毅 氏



2023
4.14
Fri. 19:30

4月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

前大阪市長
松井 一郎 氏



2023
7.11
Tue.19:00

7月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

芦屋市長
高嶋 嶺輔 氏



2023
11.21
Tue.19:00

11月度 月例会 帝国ホテル大阪
孔雀の間

映画監督
江口 カン 氏

01 子どもの個性を輝かせる自律性を育もう！

02 生きる意味をみつめなおし、都市をアップデート！

03 自分らしさを追求できる世界を実現しよう！

04 多様な個性を尊重し、共に成長できる組織を！

公開月例会及び交流会

11月度月例会は、会員のご家族や地域の皆様にもご参加いただける公開月例会といたしました。当日は、611名の皆様にご参加いただき、大盛況のもと月例会を終えることができました。

また、月例会後には天満ジャックと題して、天満市場を中心とする28店舗の飲食店にご協力をいただき、地域を巻き込んだ交流会を行いました。美味しい料理とお酒を楽しみながら、大阪青年会議所への興味を深めていただきました。



大阪会議

大阪青年会議所では、1年間のビジョンを共有する場として、年始に大阪会議を開催しております。

本年も2023年度の大阪青年会議所の活動方針を全メンバーで共有することができました。また大懇親会では所属するグループごとに企画運営する屋台が立ち並び、会員同士の結束が高まり親睦が深められ、良い1年の幕開けになりました。

OB 現役交歓会

大阪青年会議所では、現役会員とOB諸兄姉が一堂に集う交流会を年2回開催しております。2019年以来3年ぶりに、現役会員、OB諸兄姉が一堂に会し、盛大に開催することができました。

現役会員からは1年間の中間発表として1月からの活動報告を行い、OB諸兄姉を代表して山本セネター会長からあたたかな激励のお言葉をいただき、現役とOB諸兄姉の絆を再確認できました。



会員大会

1年間の活動の集大成として、会員大会を開催いたしました。年間を通して活躍したメンバーを称えるアワードの表彰、23年度から24年度へとバトンを引き継ぐ理事長引継セレモニーが行われ、未来への想いを託す機会となりました。

また、本年40歳を迎え卒業する94名の会員の卒業式が行われ、シークレットゲストとして、Do As Infinityの伴都美子様にお越しいただき、大盛会のうちに終えることができました。

国内外の青年会議所とのつながり

1月 京都会議（国立京都国際会館）



5月 ASPACジャカルタ大会（Tennis Indoor Senayan）



7月 近畿地区大会姫路大会（アクリエひめじ）



7月 サマーコンファレンス2023（パシフィコ横浜）



10月 大阪ブロック大会豊中大会（豊中市立芸術文化センター）



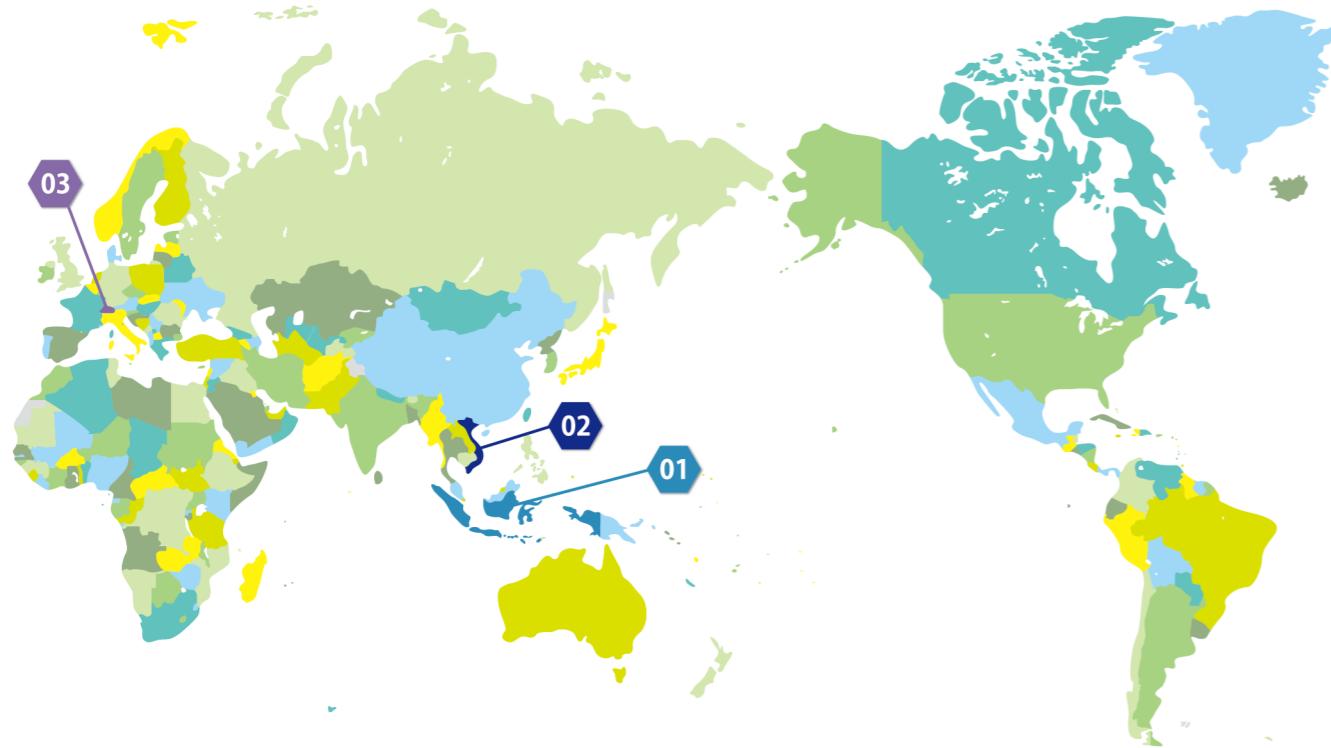
10月 全国大会東京大会（東京ビッグサイト）



11月 世界会議チューリッヒ大会（Swiss Life Arena）



姉妹 JC 締結



01 JCI ジャヤカルタ(インドネシア)



ジャヤカルタJCが来阪し、ホテルモントレグラスミア大阪にてシスターJCの締結式が執り行われました。双方の活動報告を行い、今後、ASPACや世界会議での交流、毎年どちらかの国で交流を行い、事業に参加することを約束しました。



02 JCI イーストサイゴン(ベトナム)



大阪青年会議所がベトナムを訪問し、ホーチミンシティのオーキッドホテルにてシスターJCの締結式が執り行われました。今後の協同事業実施に向け友好的な関係性継続を約束しました。



03 JCI ジュネーブ(スイス)



世界会議が開催されたスイスのチューリッヒのスイスライフアリーナにて、シスターJCの締結式が執り行われました。相互に協力関係を結び、互いの発展を誓い合いました。

広報 大阪青年会議所 公式 SNS

万博に向けての活動

なんば駅前広場 南海難波駅前、なんさん通りを中心としたミナミエリアにおいて、道頓堀リバーフェスティバル、万博開催500日前イベントが開催されました。大阪青年会議所では、大阪・関西万博の機運醸成に寄与するため、未来を創る多くの子どもたちに万博への関心と期待感を持ってもらえるようブースを設置し、「わたしたちが思い描く未来の世界」をテーマに絵画コンクールを開催しました。

イベント当日、子どもたちは自由な発想から未来を考え、いきいきと絵を書いていました。子どもたちの絵の中から優秀作品を選定し、表彰しました。



Facebook

Facebook を通じて事業の PR や活動報告をしています。



Instagram

Instagram では、事業のチラシや活動写真をメインにアップしています。



YouTube

Youtube では会員の資質向上のための動画配信や、PR 映像を配信しています。

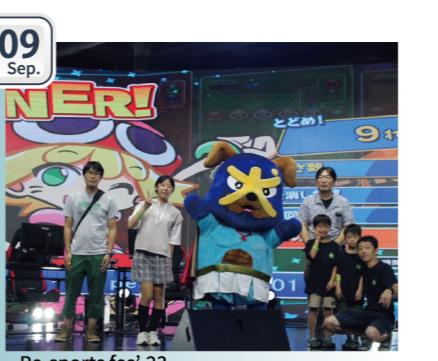
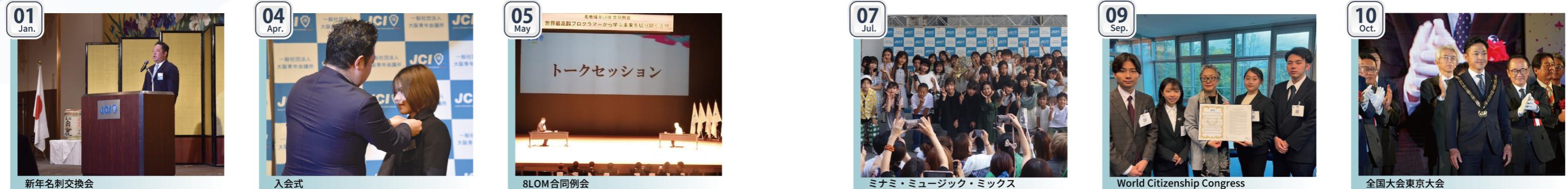


TikTok

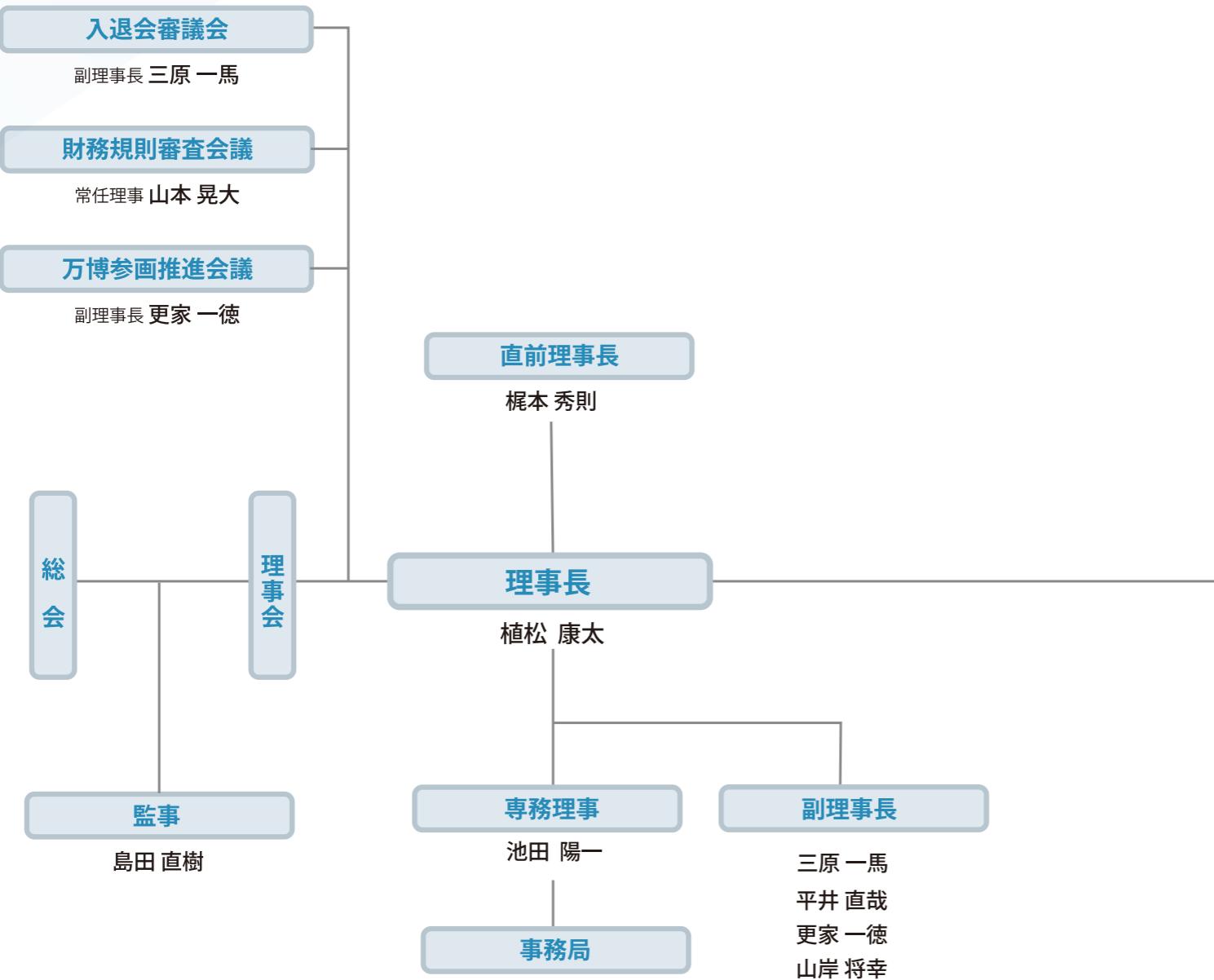
TikTok では事業 PR、魅力や活動状況のショート動画を配信しています。



大阪青年会議所 2023年のあゆみ



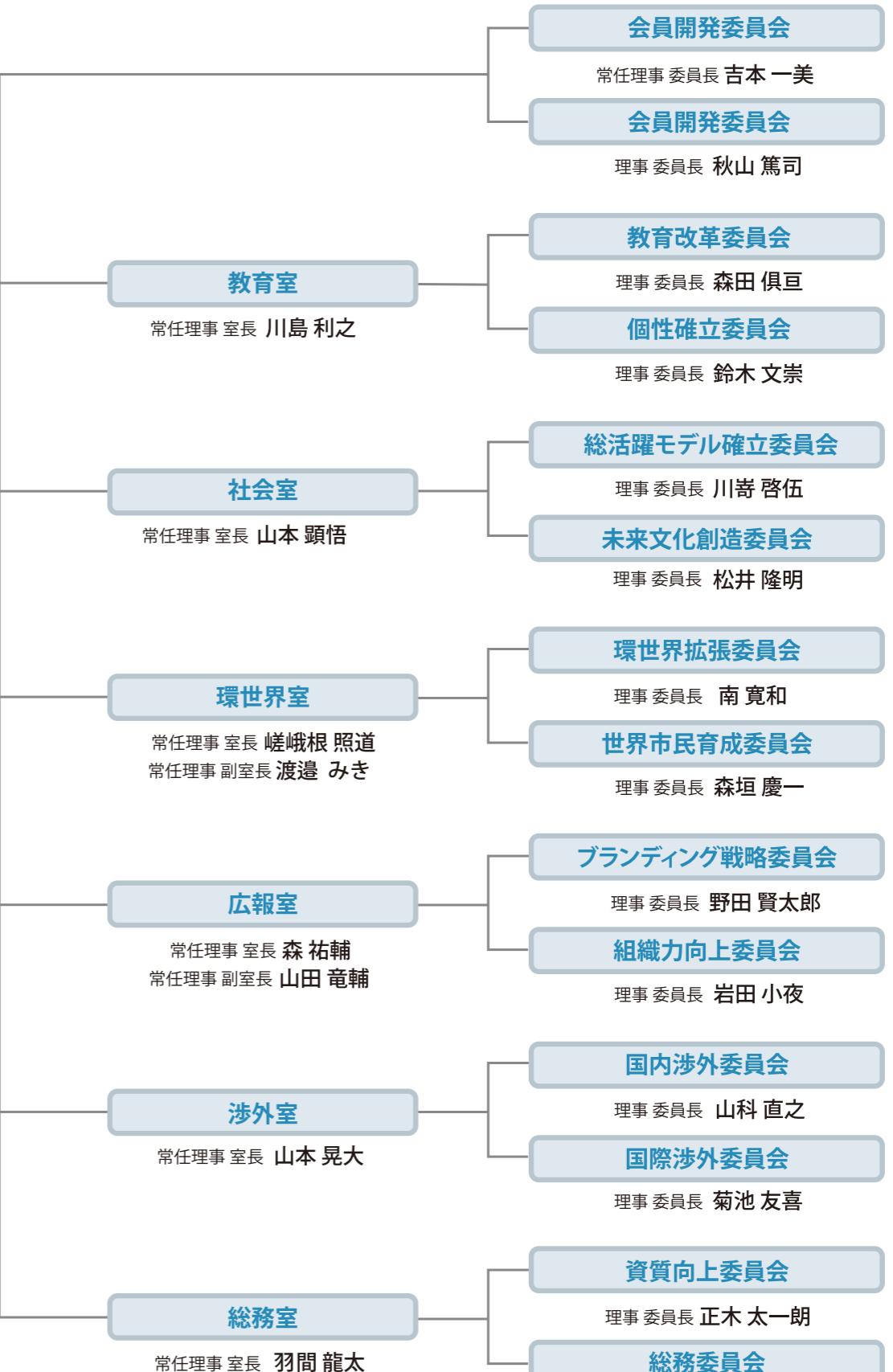
2023年度組織図



理事・役員紹介



橋本 康久	桃本 亮介	二原 一馬	千井 直哉	史家 一徳	山岸 寛平	池田 陽一	島田 直樹	吉本 一夫	川島 利之
常任理事・室長	常任理事・室長	常任理事・副室長	常任理事・室長	常任理事・副室長	常任理事・室長	常任理事・室長	理事・委員長	理事・委員長	理事・委員長
									



委員長	理事・委員長							
								